

豚丹毒

【人獣共通感染症】 【届出伝染病】

食肉検査で「豚丹毒」の豚は**廃棄処分**となります。

原因と感染経路

豚丹毒菌が原因の細菌性の病気です。豚丹毒菌は豚の扁桃、豚舎内の敷料、糞便、土壌や汚水に存在しています。

菌が口から入って感染し、3~6ヵ月齢の肥育豚でよくみられます。

豚丹毒菌は豚から人に感染することがあり、この場合は類丹毒と呼ばれます。

豚の症状

症状には四つの型があります。

《急性》

はいけつしょう

敗血症型：発熱が見られた後1~2日で急死することがあります。

じんましん

蕁麻疹型：皮膚に特徴的な赤いひし形の発疹が見られます。

《慢性》

しんないまくえん

心内膜炎型：心臓の弁にイボ状の結節ができます。外見的症状はあまり見られません。

かんせつえん

しし

かんせつ

あし

関節炎型：四肢の関節の腫れ、脚に痛みがあるため脚を引きずったり、発育が遅れたりします。

蕁麻疹型以外は外見上発見することは難しいことが多く、通常と畜場で発見されます。

予防

てきせつ

えいせいかんり てってい

適切なワクチン接種と豚舎の衛生管理の徹底です。



蕁麻疹型

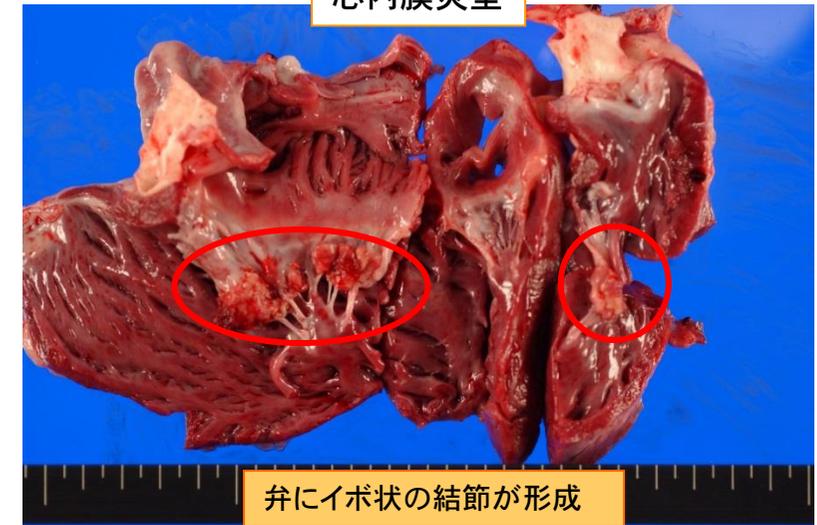


特徴的な皮膚の菱形疹



関節炎型

リンパ節の充血と腫れ



心内膜炎型

弁にイボ状の結節が形成

トキソプラズマ症

【人獣共通感染症】 【届出伝染病】

食肉検査で「トキソプラズマ症」の豚は**廃棄処分**となります。

原因と感染経路

トキソプラズマ症は、トキソプラズマ原虫（げんちゅう写真1）が人を含む多くのほにゅうるい哺乳類、鳥類に感染する病気です。

主に猫の糞便にはいせつ排泄されたトキソプラズマ原虫を豚が食べることで感染し、**原虫は全身（内臓や筋肉）にひろがります。**

人に感染した場合、成人では症状が現れにくいのですが、妊娠中の母かんせん親が感染すると**胎児が死亡**したり、無事に産まれても脳炎や水頭症など様々な先天性の障害を引き起こすことがある危険な病気です。

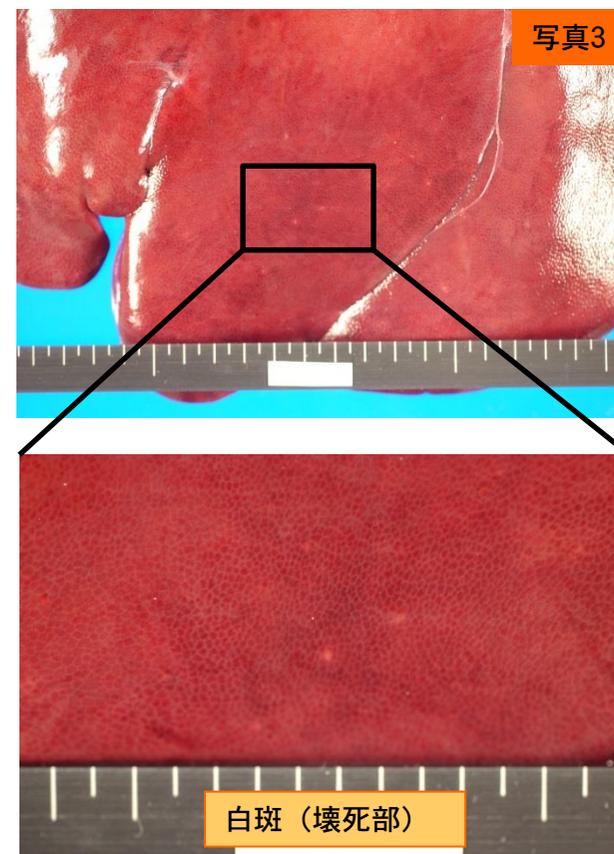
豚の症状

発熱、呼吸数の増加、じよく耳翼にチアノーゼ（紫赤色になります）がみられたりします。しかし、豚は感染しても多くは**症状が現れにくく健康**そうに見え、と畜場での検査で発見されます。

ちようかんまく腸間膜リンパ節に出血壊死（しゅつけつえし写真2）、はくはん肝臓に白斑（壊死部、はくはん写真3）や出血がみられます。

予防

豚への感染を防ぐには、豚舎への**猫の出入りに注意**したり、畜舎を洗浄・消毒するなど衛生管理を徹底し、トキソプラズマによる土壌や飼料の汚染を防止することが重要になります。



寄生虫性肝炎

食肉検査で「寄生虫性肝炎」がみられた**肝臓は廃棄**となります。

原因と感染経路

豚の寄生虫性肝炎は豚回虫（ぶたかいちゅう写真1）が原因であることが多く、糞中はいせつに排泄された豚回虫の卵を食べることで感染し、小腸内ふかで孵化した虫が体内を移動する際に肝臓を通過し、病変（写真2）を作ります。

豚の症状

写真1のように、肝臓に白斑（ミルクスポット）が形成されることがあります。**外見上ははっきりとした症状は見られませんが**、豚回虫が腸管内に寄生していると、豚が飼料の栄養を十分に吸収することができず、**飼料効率が低下**します。

予防

畜舎を洗浄・消毒し、豚回虫による汚染を防ぐ。

豚回虫は1度に大量の卵を産み、卵は熱などに強く糞中で長期間生存するため、豚は**集団で感染**し被害は大きなものになります。

そのため、早期治療、予防が重要になります。

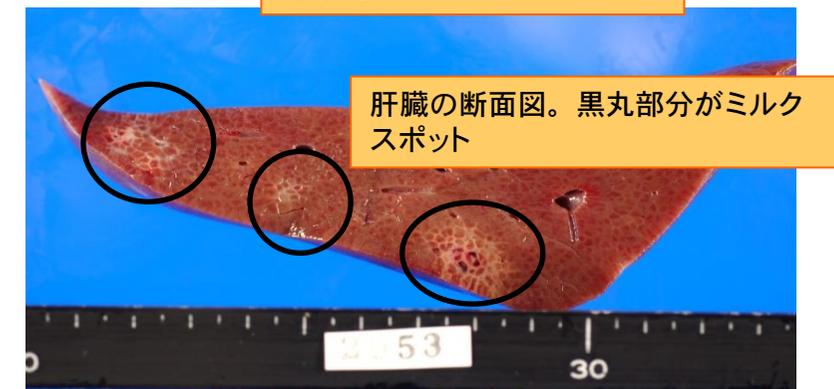


腸管内の豚回虫の成虫



写真2

肝臓に白斑（ミルクスポット）を形成



肝臓の断面図。黒丸部分がミルクスポット

豚の抗酸菌症【人獣共通感染症】

食肉検査で「抗酸菌症」が肝臓や腸などにみられた場合はその部分は廃棄処分、全身性の感染が確認された豚は**全部廃棄処分**となります。

原因と感染経路

主にマイコバクテリウム属菌ぞくきんが原因の細菌性の病気です。

汚染された環境中（オガズとこじきの床敷など）からの感染や、母豚からの感染でおこります。

豚の口より体内に入った抗酸菌は、主に全身のリンパ節や肝臓・その他の臓器に結節をつくります。

豚から人への感染については明らかになっていませんが、病気などで体の抵抗力こうしゅうえいせいの落ちている人の感染症の原因になるなど、公衆衛生上重要な病気となっています。

豚の症状

本病により発育不良はついくふりょうなどが見られることもありますが、多くは**ほとんど症状がなく**、と畜場での内臓検査で見られます。

予防

通常ワクチンによる予防や治療は行いません。

母豚を含めた環境因子かんきょういんしが最大の要因であり、集団感染が見られた場合、以下のような豚舎の衛生管理えいせいかんりの徹底が必要になります。

- ①床敷に使用するオガズ等を含めた飼育環境の消毒浄化。
- ②症状がわかりにくいため、ツベルクリン検査による保菌母豚ほきんぼとんの淘汰やと畜検査結果などを参考にした対策。
- ③集団発生の見られた集団のオールアウト。



腸のリンパ節の結節



肝臓に見られる結節

